令和７年度第２回さいたま市図書館協議会会議録

開催日時　　　令和７年１２月１５日（月）　１４時００分～１６時００分

開催場所　　　さいたま市立中央図書館　イベントルーム

出 席 者　　　（委員　※敬称略）
蒲池庸子、廣澤美恵子、富田敏弘、平田潤子、石川敬史、川又理奈、櫻井未央、
柏宏之、茂木千春、木和田美佐
（事務局）
阿部中央図書館長、中島中央図書館副館長、内ヶ嶋管理課長、
大橋資料サービス課長、野村北浦和図書館長、杉田東浦和図書館長、
馬渕大宮図書館長、井澤大宮西部図書館長、阿久津春野図書館長、
溝上与野図書館長、玉木岩槻図書館長、石井桜図書館長、長谷川北図書館長、
村山武蔵浦和図書館長

欠 席 者　　　（委員　※敬称略）
宮田洋輔、関根公一、神田剛広

公開・非公開の別　　　公開

傍聴人の数　　　　　１人

次第

令和７年度第２回さいたま市図書館協議会

日時：令和７年１２月１５日（月）１０時００分～
会場：さいたま市中央図書館
イベントルーム

次　　　　　第

１　開　会

２　任命書の交付について

３　委員長及び副委員長の選出

４　報告事項
（１）さいたま市図書館協議会について
（２）さいたま市図書館の概要について

５　議題等
（１）令和７年度（令和６年度事業対象）図書館評価報告書について
（２）さいたま市図書館ビジョン（第２期）実施計画後期について
（３）第 13 期図書館協議会における協議事項について

６　その他

７　閉　会

＜配布資料＞

（１）	図書館協議会委員名簿	・・・（資料№１）
（２）	令和７年度さいたま市図書館名簿	・・・（資料№２）
（３）	さいたま市図書館協議会　座席表	・・・（資料№３）
（４）	さいたま市図書館協議会について	・・・（資料№４）
（５）	第 13 期図書館協議会における協議事項について	・・・（資料№５）
（６）	令和７年度さいたま市図書館要覧	・・・ 冊子

＜事前送付済み資料＞
（１）　さいたま市図書館評価 報告書（令和６年度事業対象）について
（２）　さいたま市図書館ビジョン（第２期）実施計画 後期（案）について

１	開会
２	委員任命書交付
３	中央図書館長挨拶
	図書館協議会委員・事務局職員自己紹介
	正副委員長選出

新たに任命された図書館協議会委員に、中央図書館長より委員任命書が交付された。
本会議について公開とすることを確認後、傍聴希望者を確認した。傍聴人１名。
各委員、事務局職員が１、２分程度で自己紹介を行った。
また、委員の互選により、石川委員が委員長に、平田委員が副委員長に選出された。
石川委員長、平田副委員長から就任挨拶を行った。

４　報告事項
（１）　さいたま市図書館協議会について
（２）　さいたま市図書館の概要について

事務局より（１）さいたま市図書館協議会については資料№.４を用いて、（２）さいたま市図書館の概要については令和７年度図書館要覧を用いて報告を行った。

質問・意見・協議等

各委員	（特に質問、意見なし）

５　議題等
（１）　令和７年度（令和６年度事業対象）図書館評価報告書について

図書館評価専門部会長である北図書館長から、事前配布資料を用いて説明を行った。

質問・意見・協議等

川又委員	７ページの３（２）「おはなし会の開催回数」について、「参加する子供が減ってきていると感じています。」というところがございますが、こちらの年齢層は下がってきているのか、それとも下がり切ってしまっているのでしょうか。
北図書館長	年齢層が下がっているというか実感として、いわゆる赤ちゃんおはなし会については比較的人数が集まるんですね。 小学生を対象としたおはなし会については、計画をしても参加がとても少ない。参加者がいないことも、残念ながらありまして、全国的にもおはなし会の参加が少ないというのは図書館関係の論文でも出ておりまして、ではどうしようかというところでございます。 また、小学生は１人では外出がしづらいような状況になっているということと、読書以外に娯楽がたくさんあるということと、小学生自身が忙しい。どうしても下校時刻と開催時間の関係等もありまして、なるべく参加できるような

時間帯にするとか、今までおはなし会メインでやっていた児童サービスを別のイベントに変えていくような時期に来ていて、図書館の方でも新しいイベントを実施しているところです。

櫻井委員　　評価の中で、読書が好きな子供の割合について、どういうふうに実績値を取っているのでしょうか。

北図書館長　　こちらは図書館だけでやっていることではなくて、さいたま市の子ども読書活動推進計画いわゆる学校教育部や幼稚園保育所等を含めて全体で取り組んでいるものでして、こちらの子ども読書推活動進計画の中で年に１度、児童生徒に対してアンケートを取っており、アンケートの結果をもとに割合を出しています。

櫻井委員　　ということは、年に１回子どもたちにアンケートを取って、「読書は好きですか」という質問に対して、「はい」と答えた割合ということでしょうか。

北図書館長　　はい、そうです。

木和田委員　　今のアンケートの件で補足をさせてください。毎年、全国学力・学習状況調査というものがありまして、その中で生活に関わるアンケート調査があるのですが、そちらの調査項目の中に「本が好きですか」という項目があるためその結果も含まれているかと思います。

北図書館長　　その通りです。補足していただきありがとうございます。

５　議題

（２）　さいたま市図書館ビジョン（第２期）実施計画後期について

図書館評価専門部会長である北図書館長から、事前配布資料を用いて説明を行った。

質問・意見・協議等

川又委員　　資料１７ページの「つながりから地域の未来をひらく」の中で、地域資料の活用について述べられていますが、資料を有効に活用できるようにという観点で、保存だけでなく利用しやすくなるといいなといつも思っていて、図書館によっては本がぎっしり入って探しにくくなっていたりするので、どうにか良くなればいいなと思うのですが、いかがでしょうか。

北図書館長　　地域資料、郷土資料ということについて、委員のおっしゃるとおり図書館は資料保存責務があります。国立国会図書館や県立図書館等にないような資料もあります。最近各自治体、特に埼玉県に関して、これまで紙で出していた印刷物の発行をとりやめるというようなこともあり、図書館資料としてどう扱うか悩ましいところです。市内２５図書館で、例えば発掘調査報告書についてはすべての図書館で持つというよりは、それぞれの地域の図書館に置くだとか、地域資料交換会を開催することにより適切な図書館に配置できるようにしています。

リーフレット等は、クリアファイルに挟んだり、書庫を活用することにより

利用しやすい書架を心掛けていきたいと考えています。

平田委員　１８ページ、市民との協働による地域交流の活性化と永続的な交流の場の提供の中のおはなしスタッフ養成講座について、講座自体は人気があって参加者の方が熱心に取り組んでいただいているのですが、その後の受け皿がないのでとてももったいない状況です。積極的に声掛けしていただくのがよいのではないかと思います。新人の方は、慣れるまで先輩と一緒に伺うこともできるので。カルチャーセンターのようになっていて、受け皿がなくてとてももったいないのが現状です。

北図書館長　ご指摘ありがとうございます。公民館では講座を受けた方が新しいサークルを作ることが多いのですが、新しく講座を受けた方の受け皿、それぞれの図書館で既に活動しているボランティア団体を紹介することしか今のところできていないのではと思います。講座に出た方については、もし活動したいということがあれば、既存の団体をご紹介するのが現実的なのかなと思います。

平田委員　私もそう思います。既存の団体も新しいメンバーが欲しいというのが本音なので、講座を受けた方を紹介していただけたら嬉しいです。

廣澤委員　以前と比べたら、図書館と小学校のつながりも太く、教室の前には貸出資料として並べてありますし、子どもたちにとってよりよい読書の場が設けられているのではないかと思います。学校図書館自体も司書の方が工夫されていますし、入りやすいような雰囲気を作ってくださっています。図書館の敷居が高いという場合はどうしたらいいのでしょうという思いがあるのですが、たまたま公民館で子育てサロンをしておりまして、そこに年１回図書館が入っておはなし会をしているそうなのですが、そうやって外にアウトリーチして図書館が身近にあるということを分かってもらえたらと思います。やはり保護者の方が来ないとなかなか子どもだけで図書館に足を運ぶということは難しいですよね。

　私としては、以前に比べたら図書館はとても使いやすいと思っています。

石川委員長　学校図書館への団体貸出というのも積極的に展開されていて、子どもたちの生活の足元に本があるという環境はかなり進んできていると思います。とは言っても図書館にやってくるということで、どういうような環境を作ったらいいのか、どういうあり方が考えられるのかということがあると思います。学校図書館との関わりというところで何かありますでしょうか。

茂木委員　小学校２年生で生活科の学習の一つとして図書館見学に行っています。それまで図書館に行ったことがない子どもが多かった印象です。やはり保護者の方が小学校入学までの間に図書館に連れていく経験があるかどうかというのは大きいのかなと感じています。また、学校図書館に関して言うと、小学校の時間割に組み込んでおります。週に１回、学校図書館に行って本を借りることもできますし、そこで読み聞かせをしたり本の紹介、読書祭り等のイベントをしていますので、校内で言うと本の貸出冊数は増えているのですが、その後公共図書館に行くかというのは課題なのかなと思います。そういった図書館という

場を知るということも一つの大事な学びなのかなと感じています。

石川委員長　幼稚園ではいかがでしょうか。

柏委員　小学校２年生の子どもがこれまで図書館に行ったことがないというのは、図書館というよりは、社会の問題になってきてしまったなと思うのですが、今は仕事で忙しい家庭が多く、図書館が開いている時間帯に保護者の方が子どもを連れて図書館に行く時間がないんです。そうなってくると、小さい子どもたちが図書館を利用するというのはなかなか難しいのではないかと思います。本離れというのは耳が痛いお話ではありますが、私たちにも責任があるのではと思います。

自身の幼稚園では、毎日帰りの会に必ず読み聞かせをしています。近くに与野図書館があるのですが、館長とお話をさせていただき、もっと交流を持ちましょうということで、年中の子どもたちを連れて図書館見学に行かせていただきました。図書館に近い園ということもありますが、かなりの数の子どもが来たことがあると言っていました。来たことがある図書館の裏側をたくさん見せていただきました。その日はピアノ付きの読み聞かせをしていただいて、いつもと違う読み聞かせも面白く感じましたので、そういったところから本に対する興味を引っ張っていくのは素晴らしいことだなあと思いました。

紙媒体との離れというところでは、スマートフォンが普及している中で仕方がないことだなあと私も思っています。幼児がよく触れる絵本というのはスマートフォンにあまり馴染まないのかなあとも思います。飛び出す絵本とか、そういうところから本を好きになってもらいたいとなると、私たちがもっと子どもたちに本と近づくようなことができたらと思います。

最後に、おはなしスタッフ読み聞かせ講座に関連して、毎年ボランティアの方に読み聞かせに来ていただいているのですが、多くの園児が集まる場なので興味に差があります。あまり興味がない子たちに関心を持ってもらうために、読み聞かせの方々のスキルアップは必須かなと思っています。時間の制約はあると思いますが、淡々と進んでいってしまう読み聞かせの方ですと、最初についていけなくて聞かなくなってしまう子がいる。子どもたちの注目を持ってこさせるテクニックが必要だと現場を見てもらえると分かると思います。

廣澤委員　読み聞かせに関しては、演技をするものではないと指導を受けていまして、そのなかでやっておりまして、他の団体などもあると思うのですが、どういったものがよいですかね。

柏委員　いろんな読み聞かせを見てきましたが、紙芝居に関しては淡々と進めましょう、絵本の読み聞かせに関しては感情移入していった方が子どもたちも食いついてくるので、最初から淡々と進めてしまうと騒いでしまったりします。

廣澤委員　紙芝居は芝居なので、多少色をつけてもいいが、絵本はなるべく受け手中心でなるべく淡々とした方がいいと指導を受けていますので、いろいろあるのだと思いますが。

平田委員　　　　　　　まず選書が大事です。そして絵本があって、読み手も聞き手も同時に味わうという感じ。心が通じ合っていないと味わえないですよね。手遊びなどをしてこれから楽しいことが始まるよという雰囲気を作って、気持ちがぐっと来たところで読むという工夫は必要だと思います。一人前になるには時間がかかるので既存のグループに入っていただいて、先輩と２人で入ってもらって、徐々に１人に、しかし複数で入るのが基本です。

　気になったらボランティアの方に言っていいと思います。ボランティアは頼まれた方に合わせてやるのが基本なので、言っていただいていいのではないかと思います。

５　議題

（３）第１３期図書館協議会における協議事項について

管理課長から、資料 No.5 を用いて説明を行った。

質問・意見・協議等

富田委員　　　　　　　③協議会策定方式は難しいと思う。今まで通りの①図書館案報告方式もいいのではないかと思いますが、新たに②協議会提案方式を取り入れても面白いと思います。

柏委員　　　　　　　　③協議会策定方式だと、委員長のご負担が非常に大きいのではないかと思います。①図書館案報告方式と②協議会提案方式をベースに考えていくのがよいのではないかと思います。

平田委員　　　　　　　第 12 期図書館協議会からの提言を最大限に活かされたものになるのが大事だと思います。

石川委員長　　　　　　第 12 期図書館協議会からの提言を柱として、上にプラスアルファとして積み上げていくものをビジョンとしていくようなイメージがいいですよね。そういう意味では、①図書館案報告方式と②協議会提案方式の中間部分というか、①ですと委員の意見があまり聞けないと思うので、どちらかというと②寄りというような形がよいのではと思ったのですが、事務局の方でお考えになっている進め方はございますか。

管理課長　　　　　　　事務局としては、②協議会提案方式がよいのではないかと思っています。②であれば委員の皆様にビジョン策定により携わっていただいているというのが良い点だと思っています。

石川委員長　　　　　　そうしましたら、進行計画（案）は、②協議会提案方式を軸として進めていくということで、第 12 期図書館協議会からの提言を土台としつつ、僭越ですが、協議会の意見と同時に図書館で働いているスタッフの方々の意見等もぜひ協議会の中で共有いただきたいと思います。あわよくば、市民の意見を聞くような場があってもいいのかなと思います。

　そういったことも含めて、進行計画（案）は②協議会提案方式として進めさ

せていただいてよろしいでしょうか。

各委員　（異議なし）

石川委員長　ありがとうございます。ということで議題（３）についてご承認をいただきました。

６　その他

事務局より次回の協議会の日程及び図書館システム更新に伴う臨時休館について説明を行った。

質問・意見・協議等

各委員　（特に質問、意見なし）

７　閉会